

Photo ふなばし



とくしゅう
PART 1

救急医療先進都市を目指し導入した
高規格救急車のすべて

LANDSCAPE OF FUNABASHI CITY

とくしゅう
PART 2

船橋の風景



鈴身町

- 市政トピックス
- 街角ホットニュース
- WE ARE IN FUNABASHI
- アトリエ訪問 ● サークル通信

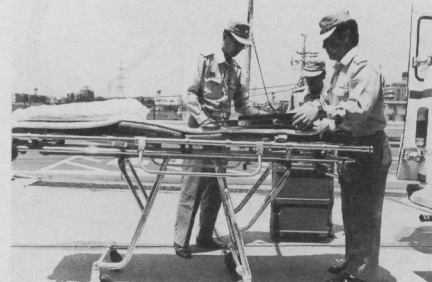
まちなかの文化財／ふなばしの民話
ペットインタビュー

vol. 49

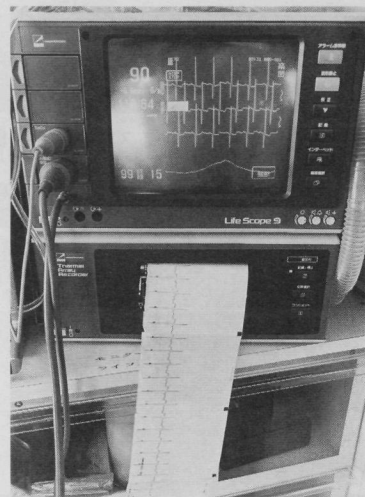
広報ふなばし写真版



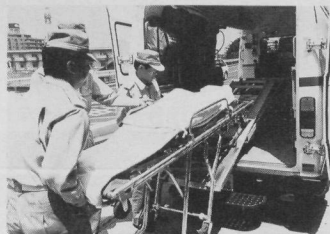
現行の救急車より大きいにもかかわらず運転しやすいという高規格救急車。最小回転半径も5.5メートルと小回りがきく



傷病者を乗せるストレッチャー。高さも自由に調節することができる



傷病者の血圧、心電図、血中酸素飽和度、心拍数、呼吸数を表示できるモニター。この情報は、搬送先の病院などにファックスなどで送られる



救急車への出し入れがしやすいストレッチャー

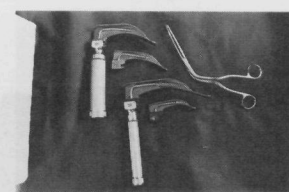
心臓マッサージと人工呼吸を自動的に行うことができる自動式心マッサージ器



口の中の異物を吸い取る吸引器



気道を確保するための器具などが使用しやすいように整理されている



マガール鉗子(右)と喉頭鏡。気道を確保するための器具



車内には様々な器具が整然と並べられている

「救急医療先進都市」を目指している船橋市では、船橋市医師会などの協力をいただきながら、平成元年度から「救急医療シンポジウム」を開催するなど、官民一体となって救急医療の充実を図ってきましたが、この特別救急隊の設置により、また一歩前進することになります。さらに、高規格救急車の出動の際、医師に同乗していただき、救急活動をするいわゆるドクターカーについても、現在、その実現に向け船橋市医師会などと協議を進めるなど、今後も、安心して暮らせるまちづくりのため、様々な施策を推進してまいります。

また船橋市は、今年の11月、救急救命士と救急II課程修了者をメンバーとした「特別救急隊」を発足させます。特別救急隊は、心肺蘇生を必要とする重い傷病者や傷病者救出に相当な時間を要し、その間に救命上緊急な処置を必要とする場合などに出勤するもので、現在、市立医療センター内に建設中の(仮称)特別救急隊待機所が本拠地となります。もちろん高規格救急車も発足と同時に配置されることとなります。

これまでは、一刻を争うような重い傷病者の場合でも、人工呼吸や心臓マッサージなど限られた範囲の応急処置を施しながら、いち早く病院に搬送することしかできませんでした。特別救急隊に配属される救急救命士は、医師の指示に従いながら、救急車内で点滴や心臓の電気ショック療法などの高度な応急処置を行うことができるので、救命率の向上など様々な効果が期待されます。

船橋市では、高度な救急処置を行うことができる様々な器材を搭載した高規格救急車を導入しました。これは、平成3年4月に救急救命士法が成立したことや救急隊員の行う応急処置等の基準の一部が改正され、救急隊員が行うことができる応急処置の範囲が拡大されたことから導入したものです。また、高規格救急車に塔乗する救急救命士や救急II課程修了者などの養成も平行して進めています。4月19日には「救急救命士」の国家試験が初めて行われ、船橋市消防局の小林美昭司令補が見事合格しました。

半自動式除細動器(4ページ参照)を使用するときには、体の2か所にパッドをあて、心臓に電気ショックを与える



とくしゅう PART 1

救急医療先進都市を目指し導入した高規格救急車のすべて

高規格救急車は、現行の救急車と比べ、室内高で19cm、室内幅で14cm広い。救急隊員が立ったままの楽な姿勢で応急処置ができるだけでなく、傷病者の頭部および左右からも処置ができるスペースも確保されている

